

平成26年度公益活動事業補助金実施事業報告会 平成27年度公益活動事業補助金公開プレゼンテーション

1. 開 会

事務局：それでは、お時間になりましたので、北広島市公益活動事業補助金の平成26年度実施事業報告会並びに平成27年度申請事業にかかる公開プレゼンテーションを始めたいと思います。

開会に先立ちまして、企画財政部長の中屋からご挨拶申し上げます。

部 長：私、企画財政部長の中屋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、委員の皆様には大変お忙しい中、また先々週に引き続きまして、今月2度目となる北広島市市民協働推進会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、事業の実施報告と申請のプレゼンテーションをされる団体の皆様には、大変お忙しい中お集まりいただいたこと、また、日ごろから公益的な市民活動にご尽力いただいておりますことに、感謝と敬意を表するところであります。

さて、本市では、NPOなどの公益活動団体と市が、対等な関係で協調、協働を図るため、「公益活動団体との協働指針」を策定しております。

これは、従来の行政サービスだけでは十分に対応できないような、地域のさまざまな課題の解決に取り組んでいくため、市民団体と行政が対等なパートナーとして「協働」していこう、という考えで策定したものでございまして、この指針に沿って、市としても取り組みを進めてきたところであります。

そして、そういった市民協働の取り組みを進めていくにあたっては、やはり市民の目線で、市民の方からご意見をいただくことが必要である、ということで、この市民協働推進会議を設置し、市民協働に関するさまざまな案件についてご審議をいただいていたところであります。

本日は、公益活動事業補助金に関して、昨年度実施した事業の評価を行い、そして新たな申請事業の審査を行っていただくこととなります。

委員の皆様には、よりよい協働事業となるよう、ご意見をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、今後も市民による公益活動が着実に推進され、魅力と活力あふれた「まちづくり」を進んでいきますよう、皆様方のご協力をお願い申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2. 趣旨説明

事務局：それでは、北広島市市民協働推進会議、大橋会長より事業報告会及び公開プレゼンテーションの趣旨説明をお願い致します。

会 長：市民協働推進会議の会長をしております大橋と申します。本日は、昨年度に公益活動事業補助金を活用して事業を実施した団体さんに、その成果や課題をお伺いする、また、今年度の申請を行う団体さんにその計画の説明をしていただく、という趣旨であります。市民協働推進会議のメンバーは全員で5人です。本日は1人、体調不良で欠席となって

おりますが。この4人で皆様の説明を受け評価と審査を行うことになっており、何か難しいようにも聞こえますが、同じ市民でありますし、市民協働を通じてもっと良くしていこうという思いを持った仲間でもありますので、フランクにお話し合いができればと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

3．委員紹介

事務局：ここで、市民協働推進会議の委員の皆さんを紹介します。

《大橋会長、井関副会長、加納委員、竹村委員の紹介を行った。》

4．注意事項説明

事務局：それでは、実施事業報告会に当たりまして、再度「留意事項」について確認します。

発表時間は時間厳守です。時間を超過した場合は、発表途中であっても打ち切りますのでご了承願います。なお、終了時間の3分前になりましたらその旨お知らせします。

発表後に、審査員から質問を行います。1つの質問に対し1分以内を目途に簡潔に回答してください。

発表については、「申請通り実施できたか」「目的を達成できたか」「事業に対する社会的理解や支援が広がったか」「事業の自立に向けた今後の方針」などを簡潔に報告してください。

団体名及び事業名は事務局から紹介しますので、自己紹介や実績報告以外の活動の紹介等は不要です。以上です。

5．平成26年度公益活動事業補助金 実施事業報告会

事務局：それでは、平成26年度北広島市公益活動事業補助金、実施事業報告会を開始します。

まず、事業名「北広島の子育て環境の充実を図る事業」について、「子育て支援ワーカーズほっとまむ」さんから発表をお願いします。

子育て支援ワーカーズ ほっとまむ

「ほっとまむ」副代表の亀岡です。よろしくお願いします。

まずは、補助金を交付いただきありがとうございました。申請した3つの事業を1つずつ報告して行きたいと思います。

1つ目は、おもちゃの体験遊びと貸出を行う「おもちゃライブラリー」の開設です。補助金をいただいて、安全で落ち着いた場所で遊べるように棚の設置などを充実させることが出来ました。正式名称を「ほっとまむ Toy・ライブラリー もくてい-mokty-」と決定し、8月31日にオープンいたしました。貸出の仕組みを作る等の準備に時間がかかってしまい、予定していた7月末から1ヶ月遅れのオープンとなりました。

祝日を含む毎週月曜日の12時半から16時半の4時間と、土日の臨時開室日と合わせて35回、3月末まで開室して、登録者は70名、様々な世代の方述べ180組の来室がありました。大体1日5組くらいが平均の計算になります。

遊びの利用は90分300円とし、以降1時間ごと100円加算。貸出は1家族2個までで2週間を期限におもちゃごとそれぞれの金額を設定しました。お渡ししている資料のなかにご利用のしおりと料金表を付けていますので詳細はそちらをご覧ください。

利用の仕方としては、乳幼児の親子さんはゆったりと部屋で遊ぶことが多く、幼稚園年長さんや小学生の家庭では体験してみたいの貸出や、母親だけで後日来室して借りていくような利用の仕方が多かったようです。

その他、お子さんが小さくてまだゲームでは遊べないのですが夫婦の対戦用に借りたり、休日に来るお孫さんのためや、高齢者のレクリエーションのための利用など、様々な使い方がされ、おもちゃの新しい利用スタイルとして幅広く受け入れられたなと感じています。

利用者からは「借りることでおもちゃを大切に使うことを意識する良いきっかけとなった」という声や、「購入する前に試しに遊ぶことが出来るのは有難い」、「北広島に他にはないこのような場所があって嬉しい」、「孫が来たときの楽しみになる」、「プレゼントの参考になる」など、嬉しい声を聞くことが出来ました。

定期的開室日のほかに、講師の方を招いての遊びの大切さを伝えるようなイベントや、地元団体の「赤い実の会」さんとのコラボイベントなど、計5回のイベントを開催しました。そちらも別紙写真等を添付しておりますので詳細はそちらをご覧ください。その中のボードゲームなどをするイベントでは幼児や小学生、大人と対象を細かく絞らずに募集したので、色んな世代の方が入り混じって遊ぶことができ、世代を問わず交流する場になったということと、遊びを通してコミュニケーションが取れるという良さを改めて感じる事が出来ました。

「もくてい」の広報としては、オープン時にチラシ2,700枚を近隣の地区にポスティング、元気フェスティバル来場者に手渡しで150枚、「おもちゃフォーラム」というイベント時に30組の親子に手渡しする等しました。その他、「ほっとまむ」のホームページや、「もくてい」のFacebookを作成して日頃の様子を配信しています。

今後の展開としては、現在の開室時間では利用出来る方がすごく限定されてしまっているのも、例えば小学生だと家に帰ってから親子で来室するには少し時間が足りないところがあって、利用

しづらいということや、返却出来る日が複数あると助かると利用者の要望がありましたので、少しずつ出来る範囲で開室曜日を増やしていくことを検討しています。

現在は、来てくれた人が参加出来る積み木コンテストを開催しています。今後もそういった様々な世代に向けてのイベントを開催し、足を運びやすい工夫をして行きたいと思っています。

2つ目の「きたひろしま産前産後サポート」ですが、産前産後サポートとして計2回の依頼があり実施しました。その他に依頼にはいたらなかったのですが、3件の登録があり、上のお子さんの幼稚園行事の際や、産後に体調が悪いときなどの預け先に不安があって登録したいといったものがありました。

依頼者や登録者からは、「産前産後にサポートしてもらえるのはとてもありがたい」、「利用料が無料かもう少し安ければ使いやすいし助かる」という声がありました。利用料の軽減はなかなか難しいんですけども、利用件数は少ない事業ではありますが、毎年問合せや登録、依頼が必ずあるので平成27年度も引き続き対応していけるように考えています。

3つ目の「休日ルーム保育」は、事業の実施するため損害保険をかけるにあたり、保育で使用する部屋には、保育士の有資格者が絶対条件として必要となることがわかりまして、現在の「ほっとまむ」の状況では進めることが出来ないと判断しました。

見込んでいたメンバーの増員も出来ませんでしたので、人員不足のため実施出来なかったということになっています。次年度以降、需要を見ながら実施出来るよう検討していきます。以上です。

この3つの事業に関しまして、事業収支決算書として報告していますが、「1 収入の部」で「おもちゃライブラリー」の事業収入を「貸出」と「遊び」に分けて計上していますが、予算額と逆転した結果となっています。予想では遊びの利用者さんが、親子で利用される方が多いのではないかとということで設定したのですが、実際は貸出利用の方が多くありまして、遊んでいくというよりは、ひゅっと来て借りて行って、後日返しに来てまた借りていくという流れの方が多かったように思います。そのためこのような内容になっています。

そして、産前産後サポートも予定していた件数よりも少なかったため、産前産後サポートに係るものについては全て（予算より）低くなっております。

以上、「ほっとまむ」の報告でした。ありがとうございました。

《質疑応答》

委員：「ほっとまむ」さんの自己評価としては、補助金が有効に使われたかどうか、どのように感じていますか？

団体：主には棚の設置ですね。安全に使えるように部屋にぴったりとした、利用しやすい棚を補助金のおかげで設置することが出来ました。棚は地元の方をお願いして作ってもらったのですが、補助金が無ければそれは出来ませんでした。市販のものになると動いてしまったり、安全なものではなかったかなと思います。

あとは印刷費ですね。ショップカードのようなものや、リーフレットを印刷しました。

「ほっとまむ」は、小さいお子さんを預かったりとか、子育て支援の団体というイメージがあるのですけれども、あえて大人の方ですとか幅広い世代に気づいてもらえるようにデザインしたかったので、人に頼んでオリジナルデザインを作るというのは、やはり補助金が無ければ出来なかったと思っています。

委員：利用状況の報告を別紙で付けていただけていますが、例えば9月を例にとって実施日の回数の中身を具体的にご説明していただければと思います。例えば、親子の方が何組だったとか、年齢とか、何をしていたとか、詳しいものが分かれば教えてください。

団体：各日に一覧票を作っているのですが、手元に持って来ておりませんでした。申し訳ありません。全体としてのお答えとなってしまうのですが、全体では親子での来場が多くなっています。

登録数70名のうち、市民の方が47名となっています。その他は札幌市、江別市、恵庭市、各地から口コミで来て下さる方も多かったです。

子どもの年齢では0~2歳、3~5歳、小学生と分けると大体平均的に来場されていました。ただ、遊びの利用となると小さいお子さんが多く、小学生以上だと親御さんが借りに来ることが多かったです。

大人のみのお来場も多少はありましたが、これからも広報していきたいと思っています。

委員：市外の方とは「ほっとまむ」さんの事業の利用者、例えば生活クラブのクラブ員が多いのですか。

団体：そういった方も勿論いらっしゃいます。木のおもちゃを求めて見に来たりとか、遊ぶ場所として来場される方もいます。あとは、会場1階にあるカフェから人が来ることもありました。

委員：ご夫婦で来られる方は結構いらっしゃるのですか？

団体：ご夫婦だけはあまりいないですね。

委員：では、お母さんとお子さんの親子が多いのですか。

団体：お父さんとお子さんや、お婆ちゃんとお母さんとお子さんというケースも数件ありました。

委員：報償費としてイベントの講師の方に謝金をお支払いになっていますけど、イベント2回分でお一人の方に5万円お支払いになったのですか？

団体：いいえ。お一人の方に3万円、もう一方に2万円となっています。

委員：役務費の「携帯電話料金」ですが、これは「ほっとまむ」さんが所有している複数台の携帯の合計ということですか？それとも、個人所有の携帯に携帯代として補てんされたものですか？

団体：「ほっとまむ」専用の携帯電話です。2台持っていて、1台は「産前産後サポート」の受付です。もう1台は「もくてい」専用で設置しました。

委員：事業評価する立場からいくつかお伺いしたいのですが、「ほっとまむ」さん自身が期待どおりの効果が出たかどうか、自己評価をお伺いしたいと思います。

団体：事業としては、満足といたしますか、予想どおりの結果になったかと思えます。もともと、1度にたくさんの方が来ることは想定しておらず、部屋も5組入ればちょうどいいスペースですので、来てくれた方がゆっくりと落ち着いていける場所を目指していました。そういった意味では毎週毎週続けて来るといったものではなく、思い出したときに地域

にある、「図書館」のような場所になるのが理想ですので、その第一歩としては上手くいったのではないかなと思います。

委員：今回の補助金を使って、「ほっとまむ」さん自身が今後、自立的に活動していくためにどのようなことを行ったか、自己評価をお聞きしたいと思います。

団体：補助金をいただきまして、基盤を作ることが出来たと思います。今後はおもちゃを大幅に入れ替えたりとか、部屋を大きくするようなことは考えていませんので基盤となる場所づくりが1年で出来たと思っています。

委員：「もくてい」の遊び時間について90分300円と定めてらっしゃいますが、利用者さんは90分という時間で満足されているのでしょうか。お子さんの中にはもっと遊びたいという子もいるかもしれませんが、90分とは妥当なお時間だったか知りたいなと思います。

団体：90分はかなり考えて設定した時間です。年齢によっても違うのですが、小さいお子さんがいる親子さんは途中で眠くなっちゃって60分で帰られることが多いです。90分まで300円が基本設定なのでお母さんの心情としてはギリギリまで遊ぼうという雰囲気は見られません。

小学生、年長さん以上になるとまだ遊びたいというお子さんもいらっしゃるのですが、そういう時はおもちゃを借りていったりとか、お土産に折紙を折ってあげたりして対処しています。

それでも90分が足りなさすぎるといった感じはありませんでした。遊び足りないお子さんはいるかもしれませんが、親御さんにとってはちょうど良い時間だったと思います。

委員：1年事業をやってみて、充実した活動となりましたか？

団体：充実していたと感じています。まだまだ広めていきたいという気持ちはありますが、初年度としては十分だったと思います。

事務局：終了時間になりましたので質疑を終了します。入れ替え作業のため若干の休憩時間を挟みます。

《休憩時間》

事務局：それでは、平成26年度北広島市公益活動事業補助金、実施事業報告会を再開します。事業名「朗読劇教室」について、「NPO法人くらしの研究会」さんから発表をお願いします。

昨年度は市の補助金をいただきまして、本当にありがとうございます。

一番重要なのはお金の問題じゃないかと思しますので、「事業収支決算書」からご説明したいと思えます。

「1 収入の部」といたしまして、市の補助金を40万円いただきました。自己資金としては当初予定していたよりも必要になりまして、増額となっております。教室売上としては、当初「10名×500円×32回」ということで16万円を予定しておりましたが、昨年8月10日から始めたのですが、問合せがあって実際に生徒となった方は2名でした。あんまり少ないと恥ずかしいのでNPOの役員を見学者として2名入れました。その後は順次(生徒を)増やしていったのですが、当初の計画で1回500円としているので休んだ場合500円は払わなくていいということになっています。32回のうち、一番多い方で29回でした。参加する人も500円という金額が妥当な金額だと思いましたが、参加しやすいように出席した時だけお金を払うというのは、参加者にとって非常にやり易いのかなと思えました。こういったことで「述べ人数214人×500円」で10万7千円となっております。ちなみに3回目からは役員も有料で一生徒として参加しました。最終的には9人の生徒でこの事業は終了いたしました。

「2 支出の部」ですが、講師謝金として朗読劇をやっており経験豊富な方を2名用意しまして、1人7千円で32回分となっております。また、講師の交通費としまして、1人は簾舞から、もう1人は円山からバスとJRを利用して、北広島駅からは私が送り迎えしております。そのガソリン代も(事業費に)含まれております。他にチラシやポスターを、生徒を集めるために作りました。このポスターはなんと1枚作るのに1,750円かかりました。これでも安いんですよ、少量ポスターでは。本当は2,500~3,000円かかります。私どもはそんなに大量に作れるわけではないので10枚、15枚という単位で発注しまして、市内の駅ですとか、会館、人の集まる場所に貼って行きました。その掲示のためのガソリン代も燃料費として載せさせていただきました。如何せん、私の車は人や荷物を運ぶので大きいガソリン車で、リッター5kmしか走らないんですよ。非常に不経済な車でして、昨年8月からガソリン代としてはこのようになっております。これでも非常に抑えております。かなり厳しい状態でした。

次に消耗品としてパンフレットの製作費ですが、パンフレットといいましてもほとんどチラシです。このチラシのデザインと印刷までを私の遠い関係の人に頼んで作っていただきました。生徒募集用のチラシと公演用チラシに分かれております。公演用は12月に中間発表会、3月に最終的な発表会、2回ありましたのでそのチラシを作りました。先ほどお見せしたポスターも印刷しました。

続いて、プリンターインクについてですが、朗読劇は非常に紙を使うんですね。台本を書いたり、発声練習のときなど、細かい場面で紙を使うので、プリンターインクを使用しました。

コピー用紙は在庫を使わせていただきましたのでゼロとなっております。

インクジェットプリンター用紙はご覧の写真とかですね、実際はビデオを撮っておりまして、本当は見ただけであれば一番良いんですが、かなり長いですよ。やっぱり10分、25分、20分かかりますからね。それではみなさんにご迷惑がかかりますのでそこはカットさせていただきます。

フットカバーについては公演のときに靴のままでは音が出るので、音がしないようにカバーを

使わせていただきました。クリアブックについては台本を持って舞台に立つので、全員統一したものが良いのではないかとということで台本用クリアブックを用意しました。

会場費は昨年度は市のご協力を得て、無料で使わせていただきましたので毎回の使用料はかかりませんでした。発表会のときに別に使用料がかかりますので、その費用となっています。

台本制作費は作品を作って、最初に出来上がった台本を皆さんに手渡すために印刷費として 2 万円計上しました。

あとは役務費ですが、振込手数料はポスターの支払いの時の手数料がかかっています。広告掲載料は、最初は予定はしていなかったのですが、広報紙ではなかなか人が集まらなかったんですね。新聞を取っている人にしかいかないものですから。それで「情報紙陽だまり新聞」は全戸に配られるのでお願いして、安く 2 回掲載させていただきました。

説明が不十分なんです（時間が来たので）以上です。

《質疑応答》

委員：チラシを色んな団体、施設にお配りしたかと思うのですが、配布先の詳しい明細を教えてください。

団体：朗読劇ということで言葉を発する仕事の方、幼稚園・学校の先生、介護施設の方、そういう方々にターゲットを絞ってそういった施設に行きました。実際は来ませんでした。

委員：そうではなくて、具体的にどの施設に何枚、どの学校に何枚配布したかわかりますか。

団体：大曲会館、こちらの会館（芸術文化ホール）、図書館、東記念館に 30～40 枚、多いところでは 100 枚持っていきました。

委員：幼稚園等には数部ずつということですか？

団体：はい、1 部 2 部です。先生の数だけ置いたところもありますけれど。

委員：決算書の講師謝金のお支払いの方法は、講師の方の講座に振込みですか、それとも手渡しで領収書をいただいたのですか。

団体：現金で手渡ししています。手数料がかかりますので。

委員：生徒さんは、2 年続けてまた次の年もやりたいのか、それとも 1 年ごとで打ち切っているのかお聞きします。

団体：是非とも続けていきたいという方がほとんどです。問合せも 5 件来ております。

委員：アンケートは皆さん「良かった」との団体ですが、参加者の年齢は 50 代、60 代の方が多いように見えますが、学生さんからの希望はゼロだったのでしょうか。PR はなされたのでしょうか。

団体：道都大学に行きましたが希望はゼロでした。

電話で問い合わせがあった方は 30 代から 81 歳までとなっています。30 代の方はカルチャー教室によく通っているけど、続かない、つまらないと思っている方がおられました。うちの教室の問合せが来たときは単なる習うことじゃない、生かすことを目的に教室をやっていると明言しています。参加される方は「それがやりたかった」と、ただその日時間を潰して習うのではなくて、ちゃんと生かすような教室にしたいと話していますので、今通っている方はそれなりの気持ちを味わったんじゃないかと思っております。

委員：つまり若い方はいないということですね？

団 体：はい。

委 員：朗読劇をやった人は発表会以外に、どのような場面でその効果を発揮しているかお話をください。

団 体：芝居は非日常的な行為です。言葉や感情は学ぶことから始まります。子どもは生まれた時に親の顔を模倣して笑ったり泣いたりしますが、大人になってからはなかなかそういう機会がない。日常の中で自分を抑えて生きていて、怒りたい、泣きたいときに発散する場所がない。その場として朗読劇教室があって、そういう方々にとって役に立っていると声を聞きました。その方は滑舌や話し方が前よりも上手く伝えられるようになったと言っています。

あとは訛りやイントネーションの改善も行い、本人も満足しているところです。

委 員：つまり、日常生活の中で活かされているということですか？

団 体：そうです。

委 員：公演を見させていただいて、男性が少なくてやり難い点があったかと思います。男性を集めることにご苦労はあったかと思いますが、今後の改善策としてなにか考えておられますか？

団 体：今いる女性の方は50～60代で仕事をされている方が多いです。そして日曜日しか時間が取れないという方がほとんどです。男性も話をしたのですが日曜日は眠たい、疲れているから休ませてくれということが結構ありました。

委 員：今回の事業を実施するにあたって、事業費の使い方や実施方法について、なにか効率性・効果性について工夫した点を教えてください。

団 体：正直いうとあまり工夫しなかったです。なぜならばもらったお金で全然足りないことは最初からわかっていましたから。ですから40万円のお金で遣り繰りすることは不可能であるということがまず1つと。

実際、目に見えないものがこれ以上かかっていますので、40万円もらったのはありがたいことですが、正直いいましてかなり苦しい闘いであったと思います。

委 員：少ない予算でお金が足りない、身銭を切ってやっているという気持ちは伝わってはくるのですが、今後、法人として自立的に活動していくためにどのようなことを行ったか、自己評価をお聞きしたいと思います。

団 体：今現在、2、3名の方がボランティアで高齢者の方の音読とかをやっております。その方も訛りがあった方ですが、かなり勉強しまして、実際に高齢者の方達に新聞を読んだり本を読んだりしています。今後もそういった方を増やしていきたいと思っています。人に話すこと、気持ちを伝えることはとても大事なので、今の生徒がこの先発表できるような形で持っていければ、人に教えられるようになっていければ、私はこの事業をやっている意味があると思っています。

事務局：終了時間になりましたので質疑を終了します。引き続き、平成27年度公益活動事業補助金申請事業プレゼンテーションに入らせていただきます。

6．注意事項説明

事務局：それでは、申請事業プレゼンテーションに当たっても、再度「留意事項」について確認します。

発表時間は時間厳守です。時間を超過した場合は、発表途中であっても打ち切りますのでご了承願います。なお、終了時間の3分前になりましたらその旨お知らせします。

発表後に、審査員から委員を行います。1つの委員に対し1分以内を目途に簡潔に団体してください。

発表については、「北広島市公益活動事業補助金審査要領」を参考に説明してください。以上です。

7．平成27年度公益活動事業補助金 申請事業プレゼンテーション

事務局：それでは、平成27年度北広島市公益活動事業補助金、公開プレゼンテーションを開始します。

事業名「朗読劇教室」について、「NPO法人くらしの研究会」さん、発表をお願いします。

今年度は、昨年度を踏襲して行いたいと思います。変わるところといたしましては、出来れば1回の教室料を500円から750円にしたいと思っています。それから昨年は年末年始を除いて毎週日曜日に開催していたのですが、今年は会場が取りづらいので変則的な曜日になってしまうと思います。会場を押さえるためには月初めに申請に行かなくてはなりませんので間違いなく日曜に出来るという約束がないものですから。教室の内容で変更があるのはそれくらいです。

新たに申込みが来ている方が2名います。岩見沢市から問い合わせしてくれた方も1名おります。「情報紙陽だまり新聞」をご覧になった方で、現在介護施設でお仕事をされており、お仕事に生かせるのではないかとこの教室を是非ともやりたいという方が1名おられます。その他、大曲光、輪厚からも(申込みが)来ております。

先ほど申しましたとおり、会場が毎回異なりますと参加しづらくなってしまいうんですよね。毎週同じ場所で、同じ曜日でとなると通いやすいしこちらも宣伝しやすいのですが、これが変則的になってしまうので参加者が戸惑ってしまわないか心配なところです。ただし、今来てくれている方々はどこへでも行きますと言っていますのでそれはありがたいと思います。

人数も今年は15名を予定しています。事業費も少しアップしまして96万円を予定しております。この事業で行われるなかで、北広島市を活性化させる1つとして、姉妹都市の東広島市の方が北広島市に来たり、向こうに行かれたりしていると思うのですが、子どもたちや色々な方が自分の街の昔話やドラマを朗読劇で向こうに行って発表出来たら面白いんじゃないかなと思うんですね。あるいは向こうから来た方に「こんなことをやっているよ」と見ていただければ「北広島って文化的な街なんだな」と思われると思うんですね。

朗読劇を専門でやっている人はなかなかいません。札幌にもいろんな劇団がありますが、ほとんど自分たちの世界なんですね。自分たちの好きなようにやって、自分たちの好きなように作ってやっていくという。公にこういった風に(教室を)やっている人は北海道にはなかなかいません。

私は若いときに自分でやってきた知識と経験を踏まえてなんとかして北広島市の人たちにそういうのを味わってもらいたいと思っています。

それでは、私どもが昨年に教室をしている様子のビデオがございますのでそちらをご覧ください。

《教室のビデオを上映しながら》

(教室の時間は)9時半から11時半までの時間でございます。最初に体操から始まります。発声は身体から出ますから体が柔らかくないと(声が)出ないんですね。そして腹式呼吸、滑舌の練習をやります。芝居をやるための読み合わせ、配役を決めるための会議も行います。

芝居を作っていくために実際に誰がその演技を出来るか生徒の皆さんに確認しなければなりません。どんな役を出来るか、最初に振り分けるのですが、本人がやりたくなければ出来ませんので本人の希望を聞きます。

この方は、去年の12月の中間発表会ではまだまだ全然だったのですが、卒業公演のときには素晴らしい演技をされました。人というのは8ヶ月で変わるんですね。

作品は北広島の昔話である「みすて橋」、「よだかの星」等全4作品を昨年やりました。12月に「みすて橋」をやりにして、更に3月にもやりました。で、どれだけこの人たちが変わったかを

見てもらいたかった。やっている本人たちも1度やっているかた自信がある。12月の集大成として3月に卒業公演を行いました。

その一部をご覧ください。

《「よだかの星」のビデオを上映した》

今、ビデオに映っていた方は、学校の補助教員をしています。隣の方はプロになりたいという意識を持ってやっています。お二人とも朗読劇は初めてだったのですが、かなり様になっていると思います。

本番はマイクをなしでやるので、声が届かないので（観客は）50～60人が限度となってしまいます。まずは声を出せるということは健康にすごく大事なことで、声が大きい人は長生きすると言われています。また、この教室を交流のために使っていただければと思います。

《質疑応答》

委員：先ほどから経費の話が出ていますが、どんな形態で補助されるのが良いと思っているのですか。

団体：私の理想を申し上げますと1年間の事業にこれだけの経費がかかるという企画書を作らせていただければありがたいです。ちなみに私が20代でやっていた頃は、1本の芝居に3,000万円かかりました。でもそれは芝居ですからね、色んなものを使います。朗読劇は普通の芝居と違いそんなに費用はかからないのですが、公演のチラシ・ポスターの印刷代、出演者の交通費等のギャランティーまで本当はちゃんとお金を払ってあげたいと思います。

委員：予算書の印刷関係はチラシ3,000枚とありますが、これは両面ですか、カラーですか。

団体：片面カラーです。

委員：台本や教則本の仕上がりにこだわりはあるかと思うのですが、どのようなものを予定していますか。

団体：《昨年度に作成した台本を見本として渡す》

委員：お話を聞いて、最終的に小劇場とか劇団を目指されているのかなと感じました。申請書に記載されている引きこもりの方とか、対人関係に自信のない方、吃音の方など、一部の方には生活改善等非常に有意義な事業だと私は思っているのですが、そのような方になかなか届いていないと思います。平成27年度はなにかPR方法は考えてらっしゃいますか。

団体：例えば養護学校や介護施設でワークショップのようなものやってみたいと思います。朗読劇は、人に伝える喜びを感じることが出来ます。障害がある方、目が見えにくい方でも、拍手をもらう喜び、生きる励みになるような活動を今年行っていきたいと思えます。

委員：収支の内容ですが、印刷費は個人的にもっと抑制出来ると思います。出来るだけ節約して、もっと有効的に使用していただきたいと思います。

また、報償費は補助金の監査、税務署のチェックも厳しくなっています。講師の方に不利益が及ばないように講師謝金は現金手渡しではなく口座振込にした方がいいと思います。

団体：はい。

- 委員：学校に行ってボランティアで事業はしていらっしゃいますか。自分の子どもが小さい頃に読み聞かせに連れて行くとすごく感動して心に残っているみたいなので。市の教育委員会とは調整しているのかお伺いします。
- 団体：市の教育委員会には話はしておりますが、生徒さんが日曜日しか時間がないと、学校の休みが合わなくなる。仕事を休ませる分の保障をしてあげたいと思ひまして、教育委員会に予算があるとのことでしたが、他に補助金が出ていると出せないということで出来ませんでした。
- 委員：どうしても、無償で平日にすることは出来ないのですか。
- 団体：3人くらいならシフトを変えたり協力してくれると思います。でも皆さん生活がありますから辛いところです。
- 委員：年に1回でもそういった企画をして努力をなさっていただきたいと思ひます。子どもさんに広がるような努力を期待します。
- 団体：今年は何んとか頑張ります。
- 委員：会費を500円から750円に増やすことについて、今の生徒さんには合意を貰っていますか。
- 団体：まず月に3,000円(750円×4週)にしようと思ひ提案したところ、生徒の方で1回ごとの支払いがいいとのことでしたので、このようになっています。
- 委員：現在の生徒数が9名で、来年度は15名に増やすとのことですけど、なにか参加者を増やすための具体的な方策はお考へですか？いくつか方策を考へていても上手くいかないんだってというお話もあるかと思ひのですが、具体的に教へてください。
- 団体：生徒が友だちを誘ってくることもありましてのでそちらの伝手(つて)が3人ほどあります。
- 委員：いま、日曜日を主な開催日としていますが、仕事をしている身としては日曜は休みたい、土曜や平日の夜がいいと思ったりしますが、ご検討はされていますか。
- 団体：(現在の生徒が)主婦の方が多く、集まって話はしたのですが、土曜はどうですか、土曜は仕事ですとか、一人一人希望がありまして、全員の意見を聞くと無理して日曜しかないかなと。私も正直言いまして去年32回、まるっこ仕事をしておりまして私も去年は休みなくやっております。恐らく主婦の方もそうかと思ひんですね。土曜や平日の夜は時間が作れなかったり、あとは足の問題もあります。徒歩の方も半分ですので帰りが遅くなると危ないと思ひ、設定が難しいです。
- 委員：わかりました。ご苦勞されているということで、1年間32回開催されて、基本的なベースは出来たと思ひます。例えば、講師の人数を1名にすることは出来ませんか。イメージとしては演出家をされているのではないと、2人いるとややこしいのではないかと、思ひますけれども。
- 団体：男性の講師は体操と発声と呼吸法をやっています。女性の講師は感情表現と読みをやっています、分けてやっています。平成27年度は新人さんと経験者が混ざって行るので時間をずらして経験者は30分遅れて練習するようにやっています。
- 委員：今後自立することを思ひると、体操ですとか発声は生徒さん自らが行っていかなければならないという思ひがあるのですが、というのも、事業費のほとんどが講師の謝金となっているので自立的な運営はそもそも厳しいのではないかと、自立するためにはアマチュ

アでも自分たちで教え合って活動することが必要だと思うのですが。

団 体：生徒たちも自主的にやっています。家や練習が始まる前に。ただ発声は家でやるよりも外でやる方が効果的ではないかと思っています。

委 員：公演を見させていただいたとき、観客ももう少しの方がいいなと思いました。広告掲載料が計上されていますが、市の広報紙や道新、Facebookなどの無料の媒体もありますので団体で工夫して、利用されてはどうでしょうか。

団 体：3月29日の卒業公演のときはテレビを入れようと思いましたが、当日のスケジュールが合わず出来なかったですが、出来ればテレビを入れたいと思っています。ドキュメンタリーのように撮れればテレビとしても仕事として面白いのかなと思います。

事務局：終了時間になりましたので質疑を終了します。

8．閉会

これをもちまして、北広島市公益活動事業補助金、実施事業報告会並びに申請事業プレゼンテーションを終了します。この事業報告会それからプレゼンテーションを参考にいたしまして、別室で審査をさせていただきます。皆様、本日は大変お疲れさまでした。